

伝豊国大明神坐像

大阪市
指定文化財
(令和2年度)



- ◆ 分野/部門
有形民俗文化財
- ◆ 所有者
宗教法人 大宮神社
- ◆ 所在地
大阪市旭区大宮3

大宮神社は、大宮八幡宮とも称される、旭区大宮に社地を構える神社である。本像は、等身大の男神像であり、八幡神の随神（ずいじん）の高良明神（こうらみょうじん）をまつる、境内の摂社高良社の社殿の中に、秘されてまつられていた。等身大、寄木造（よせぎづくり）の彫眼（ちょうがん）像で、神格化した豊臣秀吉（1537～1598）が復権した近代には、豊国大明神像として信仰を集めていた。制作は江戸時代で、銘記

はないが、当初から豊国大明神像として造立され、信仰されていた可能性もある。豊国大明神像とすれば、全国で20数例と限られる像のうちで、最大の像高を有している。近代の大阪は、秀吉の復権に伴い、神格化された秀吉が篤く信仰されていたが、その信仰を物語る史料は希少であり、重要な彫像である。

用語解説

- 高良明神（こうらみょうじん）
八幡神の随神で、平安時代以降、武内宿禰（たけしうちのすくね）と習合して信仰される場合もあった。
- 寄木造（よせぎづくり）
像の各部を別々に彫刻し、組み合わせて一つの像をつくる方法。
- 彫眼（ちょうがん）
木を彫りだして、像の目を表す技法。



詳しくはこちら

広報あさひ 2021年10月号より

「大宮神社」宮司の廣瀬 哲さんに、伝豊国大明神坐像についてお話を伺いました。

本像を発見された経過を教えてください。

祖父から、高良社の秀吉像の存在を伝えられていましたが、神様ですので、口外してはいけないと聞かされており、私自身も実は拝見したことがありませんでした。しかし、令和元年の改修工事の計画により、高良社の幾重にも釘打ちされた扉を初めて開けたところ発見に至りました。寄木造の像で、発見当初はお顔が紐でくくられており、何とか形を保っている状態でした。

大宮神社に本像がまつられたのはいつ頃なのでしょう。



昭和11年の高良社建て替え時の遷座祭の写真

祖父からの言い伝えによると、秀吉像は大坂夏の陣の時に大坂城からひそかに持ち出され当社に隠しまつられていたとの話もありますが、定かではありません。戦時中や水害時は当時の宮司が抱きかかえて逃げるなど、丁重に扱われた結果現存に至ります。昭和11年に高良社は一度建て替えられていますが、当時発表されることはありませんでした。

秀吉像については大正時代発行の「東成郡誌」「東成郡神社誌」に、高良社の像は秀吉像である旨の記載がありました。また、旭区古市の木犀の陣屋として有名だった浅田家では、先代から「大宮神社には太閤さんがおられるので、必ず高良社を詣でるように」と伝えられていたとのこと。当時は、大宮神社の秀吉像は、地域の人々から親しまれた存在だったのかもしれない。



都市景観資源 (わがまちナイススポット)



大阪市では、平成15年度に旭区の都市景観資源（旧・指定景観形成物）1件を登録するとともに、平成18年度に旭区未来わがまちビジョン推進会議による「旭わがまちお宝発見隊」の取組において応募のあったものの中から都市景観資源の候補を選定していただき、大阪市都市景観委員会の審議を経て、平成22年3月5日に3件を、都市景観資源に登録しました。また、令和4年3月31日に新たに7件を追加登録しました。



詳しくはこちら

	菅原城北大橋 東淀川区豊里1丁目 ～旭区生江3丁目 間 平成15年登録		八幡大神宮 旭区清水3丁目20番19号 令和4年登録
	城北公園 旭区生江3丁目 平成22年登録		日吉神社 旭区赤川4丁目19番13号 令和4年登録
	千林の長屋 旭区千林2丁目14番 平成22年登録		大宮神社 旭区大宮3丁目1番37号 令和4年登録
	淀川城北ワンド 旭区赤川4丁目、生江3丁目 中宮5丁目、大宮5丁目 平成22年登録		浄願寺 旭区今市1丁目5番6号 令和4年登録
	大阪工業大学 大宮キャンパス 旭区大宮5丁目16番1号 令和4年登録		重誓寺 旭区中宮2丁目4番19号 令和4年登録
	太子橋中公園 旭区太子橋2丁目7番 令和4年登録	■都市景観資源(わがまちナイススポット)とは 景観的に優れた、新しい建物や歴史的建造物、橋や樹木等はいずれも、地域の景観を特徴づける重要な役割を担っています。こうした景観形成上の大切な資源を、一人でも多くの方々に知っていただき、地域の景観づくりの中で積極的に活用していただくため、所有者との協議もふまえながら、都市景観資源として登録しています。(大阪市都市景観条例第33条)	